

## 先進視察をふまえて〈重視すべき事項〉

阪神・淡路大震災及び雲仙・普賢岳噴火の遺構を紹介・展示等を行っている事例の視察を通して、先進事例における課題等をふまえ、本事業において重視すべき事項を整理します。

### 重視事項1

#### 残し・伝えるものは何か

##### ●「本物」であること

- 「ありのまま」が持つ力を重視することが重要。
- 「現地で」公開することが重要。
- 単なる「展示」ではなく、それが秘める情報を語ること、伝えることが重要。

##### ●「次（次世代、次の災害）」に必ずつながること

- 過ぎ去った過去の情報を伝えるだけでなく、次を見すえた情報発信が重要。
- 危機感、緊張感を風化させないことが重要。
- 震災を中心に多面的な視点からの研究、持続的な情報収集と発信のあり方等に関する研究が重要。

### 重視事項2

#### 教訓を伝えるために大切なことは何か

##### ●語り継ぐこと

- 「語り部」、「アテンダント」等、人による語り伝えは大きな効果をもたらす。

##### ●わかりやすいこと

- こどもたちにわかりやすく（平易に）、また限られた時間で滞在する人々にもわかりやすく（印象的に、的確な情報を、ストーリーをもって）伝える工夫が重要。

### 重視事項3

#### 事業として継続させるために大切なことは何か

##### ●ランニングコストの軽減化

- 施設、設備、運営体制等、「入館者の経年的減少」を前提とした整備が重要。
- 可変性、更新性を重視した施設づくりが重要。

##### ●修学旅行、学校団体への対応

- 意義の面から、そして事業継続の面から、修学旅行・学校団体はメインターゲット。適切なソフトとともに受け入れにつながるハード整備が重要。
- 想定ターゲット
  - ①修学旅行、②市内・県内学校団体、③復興視察・教育旅行、④観光客、⑤市民

##### ●目玉となる要素

- 「ここにしかないもの」、「今しか見られないもの」、「特別に見られるもの」が重要。

### 重視事項4

#### 震災遺構及び震災の記憶を未来へ継承するときに大切なことは何か

##### ●市民と共にあること

- 震災遺構と震災の記憶は市民が共有するもの。

##### ●「そのとき」だけでなく、「今」と「未来」を見つめること

- 他地域で起こる災害は、記憶を蘇えさせる機会でもある。風化させない絶え間ない努力が重要。

##### ●「語り継いでいくこと」を、重要であると考え続けること

- 語り継いでいくためには、時間をかけて人材を育てていくことが重要（次世代の語り部も含む）。そのために必要な対応を惜しまず取り組み続ける姿勢が重要。